



足立区立蒲原中学校

学校だより

平成二十三年十二月一日発行

発行者 蒲原中学校

校長 保坂 朗

電話

三六〇五一八三三五

この一年

校長 保坂 朗

忘れ得ぬ平成二十三年もあとひと月となりました。
あの三月十一日の未曾有の大震災は大きな傷跡とともに、私たちに多くの教訓を残しました。

身の毛がよだつような津波の恐怖。あまりにも多くの尊い生命が一瞬にして奪われたことの理不尽さ。

原子力発電所周辺の放射能という目に見えない汚染の被害。

こうした直接的な被害や影響だけでなく、この東京でも色々なことを考え、生活を見直すようになりました。

例えば震災後、電力事情は逼迫し、私が住む町は計画停電の区域に入り、何度か真つ暗な中で生活しました。

街じゅうの電気が消え、家に帰っても電気代わりをろうそくを灯し、懐中電灯を頼りに手探りで行動する生活。

電気ストーブはもちろん使えず、灯油も不足がちなので、厚着をして毛布をかぶっての生活でした。

しかし、そんな生活だからこそ、手に入れたものもありました。それは、家族の団らんです。

ロウソクやキャンプで使ったラン

タンを持ち出し、その心細げな明かりを囲み、食事時もあるべく小さな輪になって、顔を寄せ合い、食べ物分けあったり、箸をつついたり…。

テレビが見られないから、子どもが小さい頃よく遊んだ、薄暗くてもできるゲームもしました。そして、ゲームの合間に家族で話も弾みました。

「テレビがないのもいいね」

そんなことを誰ともなく、言い出しました。

それは今までになかった経験です。

「家族のきずな」というものを、実感させてくれた瞬間です。

被災地の方々は、それこそもっともつと重い部分で、この震災に直面し、涙し、悲嘆に暮れた日々を過ごされました。そして今なお悲しみも癒えず、不自由な生活を余儀なくされていることを私たちは、報道などで知っています。

この震災後、被災地だけでなく全国各地で人と人の結びつきやつながり、きずながこの震災を乗り越えていくキーワードだということが分かってきました。

これから迎える年末、年始は家族のきずなを再確認する良い機会です。

大震災のあったこの一年を、そういう意味で振り返ってみるのも、子ども

困ったときの相談は「いじめ、悩み等」

24時間受付 東京都いじめ相談ホットライン

足立区いじめ一〇番(月)金8:30~17:00

足立区教育相談センター(月)金9:00~18:00

03・5800・8288

03・3880・5577

03・3852・7830

たちにとって意味があるのではないのでしょうか。
どうぞ、ご家族そろって、良い年をお迎えください。

「人権学習週間」

十一月七日(月)~十二日(土)

今回は学習テーマに「様々な人権問題」ということを設定しました。

○取り組み

校長の朝礼講話

人権に関する朝読書の実施

道徳授業地区公開講座の実施

「命の大切さを学ぶ教室」の実施

全校生徒を対象とした「いじめ」に関するアンケートの実施

○「命の大切さを学ぶ教室」

十一月十二日(土)

警視庁と本校が連携し、この教室を実施しました。

平成八年に忌まわしい事件で娘さんを亡くされた小林賢二さんを講師としてお招きしました。



～小林さんの講演～

○生徒の感想

三年女子生徒

私は、このようなことが、絶対にあつてはならないと思います。誰かとけんかしたら、謝ればいい。誰かの物を壊してしまったら、弁償すればいい。けれど、亡くなってしまった誰かの命は謝つても、お金を出しても、もう二度と手に入ることはできないのです。

残された遺族の方たちの気持ちや心の傷はどうでしょう。毎日が悲しく、虚しく、心には一生癒えることのない傷と共に、誰かを疑い、憎みながら生きていかなければならないのです。私は、それほどつらい人生を歩んでいける自信もありませんし、そのつらさに耐えていくことのできないと思います。

それでも今回、小林さんは蒲原中学校に来てくださり、事件の内容と命の尊さを話してくださいました。きっと、本当につらい経験だったと思います。それでも我が娘を失った苦しみを、あんなに大勢の前で話す小林さんは、本当に強い方だと思ひ、またそこに家族の愛を感じました。

今回の講演を聞いて、自分の命、他人の気持ちを大切にしていこうと、改めて思いました。そして、自分の鼓動が聞こえるということに幸せを感じることができました。ありがとうございました。

今回の事件の犯人が、一刻でも早く見つかることを、心から願っています。

「薬物乱用防止教室」

十一月二十四日(木)

学校薬剤師の坂本先生をお招きし、薬物乱用防止教室を開催しました。

「ダイエットに効く」、「疲れがとれる」、「嫌なことを忘れられる」など、薬物乱用への誘惑は心のすきまに入り込むので、「正しい知識」と「断る勇気」が必要であることをビデオの視聴や講話から学ぶことができました。

○生徒の感想

二年男子生徒
今日のお話を聞いて、薬物の恐ろしさを改めて知ることができました。特に怖いと思ったことは、「スピード」や「エクスタシー」というように名前を変えて売られていることです。また、甘い言葉にだまされ、中毒になると次には高いお金で売りつけられるという手口も恐ろしいと思いました。僕は、今日のお話を聞いて、薬物に絶対手を出したくないと思いました。



～学校薬剤師の坂本先生のお話～

「職場体験発表会」

十一月二十八日(月)

一年生と二年生が合同で、職場体験発表会を行いました。この取り組みは蒲原中学校では新しい試みで、二年生の学級委員が中心となって企画と運営をしてきました。

二年生の代表生徒が、職場体験での仕事の内容や仕事の大変さ、その仕事に必要な資格などをスライドにまとめ、一年生を前にして発表しました。また、職場の方たちとの接し方について、服装や挨拶が大切であることを寸劇を通して伝えるなど、工夫した点もありました。

蒲原中学校をこれから背負っていくとすると二年生の意思が感じられた発表会となりました。



～代表生徒による職場体験発表～

「部活動の記録」

○陸上部

・愛国学園招待リレー 第三位

○卓球部 区秋季大会

・男子団体戦 第二位

・男子個人戦 第三位

・女子団体戦 優 勝

・女子個人戦 第三位

・女子個人戦 第三位

村上 航悠

早川 哲平

原田美紗江

「連合駅伝大会」

十一月十日(木)

舎人公園陸上競技場

○男子十八位

選手 二年 小俣 裕基、加藤 冨基

三年 中澤 涼

三年 村上 裕介、春日 法大

白須 一馬

○女子 六位

選手 一年 別府 里奈

二年 加藤 邑梨、野原 由樹

三年 枝吉 綾、齋藤 彩花

「東京駅伝足立区代表生徒」

区連合駅伝大会の結果から、本校より次の四名の生徒が、足立区の代表チームに選出されました。

・代表選手

男子 加藤 冨基 中澤 涼

女子 加藤 邑梨 野原 由樹

この東京駅伝大会は、各区市町村が代表チームを編成して参加します。

今年度は、平成二十四年三月二十日(祝)に、調布市の味の素スタジアムを中央会場としたコースで開催されます。

○十二月の土曜授業

・日時 十二月十日(土)

午前八時五十分～

十一月四十分

十一月四十分

十一月四十分

十一月四十分

十一月四十分

「十二月の主な予定」

1日(木) 専門委員会

2日(金) 学習展示発表会準備

3日(土) 土曜スクール

5日(月) 全校朝礼

学習展示発表会(始)

6日(火) 三者面談期間(始)

7日(水) 学習展示発表会

三者面談

8日(木) 学習展示発表会

三者面談

9日(金) 学習展示発表会

三者面談

10日(土) 土曜授業日

安全指導日

12日(月) 学年朝礼

三者面談期間(終)

13日(火) 中央委員会

16日(金) スペリングコンテスト

19日(月) 学習展示発表会(終)

生徒会朝礼

20日(火) 三年面接練習

避難訓練

21日(水) 大掃除

22日(木) 全校集会 11:40～

イーストピア東和交流活動

26日(月) 冬季休業(始)

(生徒会主催)

28日(水) 学校閉庁期間(始)

(二月四日まで)

4日(水) 学校閉庁期間(終)

7日(土) 冬季休業(終)

10日(火) 全校集会 8:30～

14日(土) 土曜授業日

セーフティ教室

「二月当初の予定」